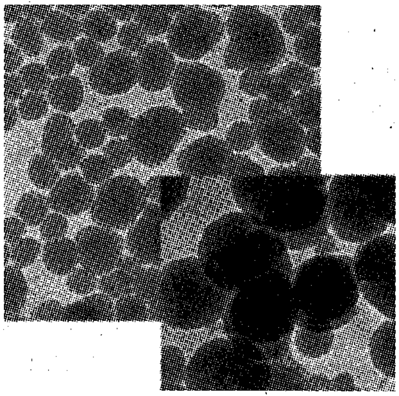
コロイド溶液を本格展開

米社のナノ粒子技術を駆使

東京興業貿易商会

東京興業貿易商会（東京都港区、武藤尚近社長）は、販売代理店契約を結ぶ米ナイヤコール社のナノ粒子製造技術を駆使し、コロイド溶液の市場開拓を本格化する。アルミナ、五酸化アンチモン、セリア、シリカなどさまざまなナノコロイダル酸化金属溶液をラインアップするほか、各種オーダーにも対応。粉粒体での販売も行う。すでにサンプルワークに入っており、これまでに難燃助剤などで採用実績を持つ。引き続き触媒やコーティング剤、赤外線吸収剤などとして多方面で用途を掘り起こしていく方針で、将来的にはコロイド溶液事業を新たな収益の柱に育成していく。



各種ナノコロイダル酸化金属をラインアップ、オーダーにも対応する

東京興業貿易商会は主に工業原材料、耐火断熱材、シール、ろ過助剤などの工業用製品を輸入販売する専門商社。工場内で使用されるガスケットやパッキン、ヒーター製品、断熱ボード、ろ過製品などを取り扱い、ガスケットは子会社・ニットーが製造する自社製品も販売する。海外では2010年に北京に現地法人を設立している。

コロイド溶液事業は5年前に米ナイヤコール社の販売代理店となったことで取り扱いを開始。実績も出始めたことで市場展開を本格化する。ナノコロイダル酸化金属は製品・素材に付加価値を与えるもので触媒、コーティング剤、安定化剤などさまざまな用途で使用されており、その応用分野も多岐に渡る。

同社ではアルミナ、五酸化アンチモン、セリア、シリカのほか、酸化スズ、イットリア、酸化亜鉛、ジルコニアなどのコロイド溶液をラインアップする。粒子径が小さく透明性に優れるため、コーティング剤として提案するほか、触媒、成形用のバインダー、樹脂添加剤、赤外線吸収剤など各種用途で提案を図っていく。

ナイヤコールのナノ粒子製造技術を生かして、各種酸化金属の溶液や配合比率、粒子サイズのオーダーにも対応する。また、溶液でなくナノコロイダル酸化金属の粉粒体としても販売が可能。

難燃助剤として化学メーカーで採用実績があり、現在は光学用の反射防止コーティング剤や、フィルム・ガラス向けの紫外線・赤外線吸収剤などのサンプルワークを進行中。そのほか化粧品原料などへの展開も視野に入れる。実績を積み重ねることで、将来的にはコロイド溶液事業を工業用製品事業に並ぶ収益の柱に育成していく。

平泉洋行

増益体質へ改革推進

高付加価値商材を育成

平泉洋行は100億円ビジネスを見据えた成長基盤の拡充を急ぐ。2012年12月期からの3カ年経営計画を具体化する中で、高付加価値な新規商材の育成などによる事業構造改革を推進していく。主力のエラストマー販売とともに、戦略商材に位置付けたクライブルグのTPE（スチレン系熱可塑性エラストマー）やエボニック製品など実績が積み上がってきた。さらにシリコーン製品の拡販や新規ゴム薬品など新たな商材の開拓に着手している。「機械部門でコミッション方式に変更したことから増収幅は目減りしたが、利益面では計画通りで増益体質へ強まっている」（戸張傳二郎社長）として、最終年度となる今期には前期比14％増の90億円の達成を狙う。

平泉洋行は、合成ゴムやウレタン、ゴム薬品など副資材などを取り扱う専門商社で、機械部門では成形機や測定器などの輸入販売を手掛ける。13年初に主力のゴムビジネスユニットとウレタンビジネスユニットを統合し、エラストマービジネスユニットを発足。提案型営業体制の強化とともに、クライブルグのTPEやランクセスのEPDMなど品揃えを拡充してきた。この間「ランクセスやラインケミー、住化バイエルウレタンなどメーン商材を軸に順調に推移している」とする。

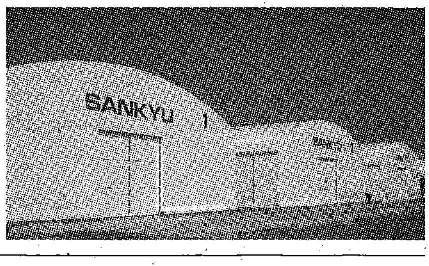
また、シリコーンビジネスでは内外の主要4社と取引があり、各社の製品特性やコストパフォー

川商事

3分野軸に基盤拡充

成長が見込めないが「わが社の主力部門として、きめ細かな顧客対応で新用途開拓など市場深耕していく」とする。

も同様に、旭化成ワッカーシリコーンとの販売提携を強めながら、マーケティング・営業活動を展開。新規顧客開拓を推し

置やクロム回収装置に加えて「NECファシリティーズ社とホウ素フッ素処理装置で販売代理店契約を結んでおり、ホウ素